

なんとカンファレンス 2019 夏

なんとカンファレンス 実行委員会

〒631-0046 奈良県奈良市西千代ヶ丘 3-11-5 松谷様方

助成事業の概要

実施概要は以下の通りです。

■実施日時：2019 年 9 月 1 日 (日) 9:00 ~ 17:00

■実施会場：畿央大学 (奈良県北葛城郡広陵町馬見中 4-2-2)

■参加費：1,000 円

■参加人数：132 名※小学生、運営スタッフ含む

10 回目の『なんとカンファレンス 2019 夏』の企画ですが、午前の部は、NPO 法人支援機器普及促進協会理事長である高松崇さんに、支援技術の活用について、ご講演いただきました。

午後の部は、参加者全員でワークショップを行いました。セッション (1) では、支援機器普及の第一人者の高松さんとモチベーション支援の第一人者であるおがっち (兵庫教育大学大学院准教授・小川修史実行委員) とともに、普段の生活にすっかり溶け込んだ『支援機器』としてのタブレット端末の可能性と限界について考える場としました。セッション②では、屋台店主による様々な支援に関する展示内容について、ワークショップを通じて見学・理解し考える場としました。

※具体的な内容は「事業の成果」に記します。

事業の成果

【午前の部】

NPO 法人支援機器普及促進協会理事長で京都

市教育委員会専門主事である高松崇さんによる「AT を活用するとはコンビニエンスの違いなのかも」と題する基調講演を実施、最新の AT (支援技術) の紹介と、障がいの有無に関わらず、ICT (情報コミュニケーション技術) を使うことの意義について、参加者との双方向の意見交換をしながら進めました。

【午後の部】

参加者全員によるワークショップを2つ実施しました。1つ目は iPad を用いて、子どもたちがワクワクするような教材を作るワークショップ。2つ目は展示されている団体「屋台」に参加者が分かれて、その展示内容や商品について学び、その展示内容や商品の「看板・広告」を作るワークショップ。いずれも参加者が自ら考え、手を動かすということを大事にしたワークショップを実施しました。いずれも参加者がグループに分かれ、iPad または展示物や商品を実際に触りながら、グループ内で話し合いながら、模造紙と付箋に話し合った内容を書いていくというやり方で行いました。

・午前の部、午後の部ともに参加者がただ聞くだけではなく、自ら考え、参加者同士で話し合い、手を動かす、という能動的な活動をすることで、かなりの負担を与えた可能性はあるものの、参加者からはとても面白かった、ためになった、考えさせられたとの好意的な感想が寄せられ、また参加したいとの意見を多く聞くことができました。毎年、イベントの最後に実行委員会からカンファレンスのまとめの言葉を発表していますが、今回

は『一緒に考えると、一緒に進める。』とし、参加者がともに考えることが大事であるとのまとめを行いました。

・また、午後の部の「看板・広告」を作るワークショップで参加者が作った成果品の一部が、展示していただいた企業様から好評を得て、実際の商品のチラシに採用されることになりました。

これまで以上の参加者募集ができました。今後も各機関の後援を取り、より効率的かつ広域的にイベント告知を行う方法を検討したいと思います。

■ 成果の広報、公表

特に印刷物としての成果の広報・公表は予定しておりませんが、今回のカンファレンスで得られた意見は随時、なんとカンファレンスの公式 Facebook ページや開催イベントを通じてお伝えする予定です。

■ 今後の展開

・今回の活動を通じて、これまで実行委員会が大切にしてきた「奈良における障がい支援のつながりを参加者自らが作っていく」という目的が十分に達成できたことが、参加者の感想からもうかがえたことから、次年度以降も引き続き、新しい試みを加えつつ活動を続けてゆきたいと考えています。また今回のワークショップの成果品が、企業の販促アイテムに採用されるような事例も出てきていることから、より社会への発信についても何らかの企画を検討したいと思います。

・これまで 3 年にわたり畿央大学で開催してきましたが、別の大学からも会場に使ってほしいとの要望を受けており、さらなる奈良の地域への広がりも見据えた計画を立案してゆきたいと考えています。

・本事業は昨年度に引き続き、奈良県教育委員会のご協力で公文書に添付する形でのイベント告知や多くの障がい支援に関するイベントや、フリーペーパーの誌面購入による広告宣伝により、